

みなとかまいし 地区会議だより

【平成26年10月1日発行 第6号】

みなとかまいし地区会議は、市中心部の39団体で組織し、地域と行政との協働による地域課題の解決に取り組んでいます。

【発行】みなとかまいし地区会議
議長 高橋松一

【事務局】釜石地区生活応援センター
電話22-0180 FAX22-6375

平成26年度 地域会議要望

各町内会から出された要望事項を運営委員会で協議し、次の7項目を今年度の要望事項として取りまとめ、以前から回答を求めていた5項目を併せて釜石市長へ提出しました。

【釜石小学校東登校坂の補修】課題①（大渡町内会）

地震により登校坂の階段にひびが入り、歩き難く危険。避難道でもあり、高齢者等にも歩きやすく整備してほしい。② 側溝が浅く狭いため、降雨時は水と共に山の土砂や木の葉などで詰まり、歩道に水が溢れ出ている。



【防犯灯の修繕及び取り替え】課題③（鈴子町内会）

傾きがあり、浸水し錆びている防犯灯がいつ倒壊するか不安な状況である。

【道路の穴ぼこの補修】課題④（鈴子町内会）

凹凸がある道路が数箇所あり、歩行等において危険。高齢者の歩行や車両の運行にも支障をきたしている。



【市有地を今後も駐車場として継続使用したい】課題⑤（鈴子町内会）

市教育センター裏の駐車場を今後も長く、駐車場として使用させて欲しい。

【大平町望洋ヶ丘から大平町1丁目への避難道路の接続】課題⑥（嬉石・大平・望洋ヶ丘町内会）

通っている赤線道を拡幅し、大平町1丁目7番方向へ接続させてほしい。

から大平町1丁目のゲートボール場付近への道路接続について検討してほしい。



【甲子川の浚渫について】

通称0番地を含めた甲子川の浚渫は、河川の氾濫の防止や高潮の減災にもつながる。県の趣旨を含め、明快に回答してほしい。

【大只越町日ヶ沢団地に至る道路改良について】

仙寿院東側の急傾斜地事業と旧釜石小学校仮設脇の道路拡幅事業の延長線上に避難道路があり、かの道路に結筋される重要な箇所であり、住民の要望を取り入れるべき回答を求める。

【被災者生活再建支援金関連について】

被災者生活再建支援金の支給がどのような制度をもとに、どのように支給されたのか。行政として市民に不公平と公平間等との差について明快な根拠と対応策を示せ。

【建築許可と規制の整合性について】

【グリーンベルトについて】

大震災から住民の生命と財産を守るための防御としての第3堤防として位置付けられていたものが、住民説明や理解もないまま避難道路としての計画変更された。極端な盛り土で住民に地域離れを強い、東部地区の異常な嵩上げにつながる、住民不在の施策であり、国をも欺く税金の浪費として住民は疑念を抱いている。一連の費用対効果の検証などの説明を求める。



グラウンドゴルフ 交流大会♪

参加者
募集!

グラウンドゴルフでスポーツを楽しみながら、地域の交流を深めましょう♪

- ・ 日 時：10月29日（水）13：00～ ・ 会 場：釜石市球技場（旧松倉グラウンド）
- ・ 参加費：無料（地区会議にて負担）
- ・ 持ち物：タオル、帽子、飲み物。動きやすい服装、履きなれた靴でご参加ください。
- ・ 申込み：10月22日（水）までに次の地区会議役員（ブロック長）へお申込み下さい。

【浜町・東前ブロック】高橋松一さん（電話22-6114）

【只越・大只越ブロック】菊池新之助さん（電話24-3479）

【大町・大渡ブロック】荻野哲郎さん（電話22-3341）

【松原・植石ブロック】成瀬幹雄さん（電話25-0002）

上位成績者には
ステキな景品が☆

見守りネットワークの推進



「お隣の人、最近見かけないな」「町内のおばあちゃん、この前転んだのを見かけたけど、大丈夫かしら？」など

いつものちょっとした気づかいで同じ地域に住む人をお互いに見守りましょう、という

『見守り活動』が今年度より地区会議の活動に加わりました。

これまでは小学校の通学路での児童の登下校の安全確保に努め、活動をしてきましたが、今後は地域住民による地域コミュニティを重視し、地域住民による見守り活動を推進します。

ふるさとの「矛と盾」

【みなとかまいし地区会議 議長 高橋松一】

昔の中国、楚という国の有名な話。矛と盾を売る商売人「私の矛は世界一強い、どんな盾でも突き破る。私の盾も世界一で、どんな矛でも防御できる。」と大見得の大宣伝。見物人の一人から「その矛でその盾を突いたらどうだ。」と云われ、商売人は答えられず、周囲の観客は大爆笑。さて、かまいし。大震災から3年半以上も経過したが、まちづくり策がなかなか見えてこない。市から許可をもらって建設したものを壊せという話、水産のまちとうたっているが未だに見えない水産振興政策、またどっかに吹っ飛んでしまった庁舎建設関連政策など。東部地区の復興関係で血税7千数百万が無駄使いという話もある。これらの課題解決には市民から選ばれた『代表選手』が当たっているのが安心だが、選ばれた側も選んだ側も現実のことの重大さ、責任の重さを再認識して欲しい。私たちのまちは中央の企業にとって商売の場であったり、学者や学生を含めた若手にとって学習・研究の場・材料として好適であったり。まちづくりの政策と住民環境のずれが、楚の国の“矛盾”と同じであれば、復興は“夢の先”となろうし、ツケは次代に回される。その現実を目の気が付くべきだ。今、住民は将来に向かい不安の中で日々年齢を重ねてい